



ひがし野

教育目標

真理(まこと)を求める生徒
情操(こころ)を深める生徒
身体(からだ)を鍛える生徒

高め合い 磨き合い 感動し合い
「愛」いっぱいの真岡東中

令和2年
8月

16日間という短い夏休みを終え、東中の生徒たちが学校に戻ってきてくれました。2学期とは言え、やはり8月。猛暑の日々ではありますが、生徒たちは元気いっぱいに学校生活を送っております。コロナ渦の中で、様々な活動に制限が加えられておりますが、昼休みなどは外で元気いっぱいに友達と遊ぶ姿を見ると、生徒たちの生きるエネルギーを感じさせてくれます。運動会、ひがし野祭など学校行事が多い2学期です。それぞれの行事の目標に向かって、東中生の活気溢れる姿を見せてくれることを期待しています。

今後の学校行事等について

〈運動会〉

9月12日(土)に実施いたします。(雨天順延)ただし、感染予防のため、種目を変更・削減しての実施となるため、午前中のみ開催となります。すでにご案内の通り、保護者の方々は各家庭2名を原則とさせていただきますので、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

〈ひがし野祭〉

当初は10月24日(土)の実施を予定しておりましたが、室内に多くの保護者の方々をお呼びすることでの感染拡大が懸念されることから、保護者の方々および来賓等をお呼びせず実施することとなりました。つきましては、10月23日(金)の実施に変更いたします。

メインは合唱コンクールとなりますが、生徒は距離を確保するとともに、マウスシールドを付けて歌うこととなります。保護者の皆様には、合唱コンクールの動画を何らかの形でお渡しする方向で検討しております。

〈修学旅行〉

真岡市内全小中学校がアンケートを実施し、80%以上の同意が得られた場合は実施することで進めてまいりました。本校は80%以上の同意が得られましたので、10月7日～9日に福島・那須方面で実施する方向で計画を進めております。3学年保護者には、文書にて詳細日程をお伝えするとともに、改めて参加希望をとらせていただきます。

“人格の形成”を目指すパートナー

昔から、「学校は敷居が高くて、。」という話を耳にします。

「学校の敷居」とは、一体何を指しているのでしょうか。

「敷居が高い」には、「不義理をして行きにくい」「格が高すぎて行きにくい」といった二つの意味があるようです。保護者の方々が学校に不義理をすることは考えにくいです。一方、学校の格が高いことも考えにくいです。だとすれば、学校の敷居とは、言い換えれば「率直に話しにくい。」が現実であろうと考えます。確かに、昭和の時代は、学校の先生の言うことは絶対で、家に帰って先生に叱られたなどと親に言えば、さらに叱られてしまう、といったことが数多く聞かれました。そんな時代の風潮が続いて、「学校の敷居が高い」と言われているのだろうと推測します。

教育基本法には、「教育は、人格の形成を目指し、平和的な国家及び社会の形成者として、。」と書かれています。要するに、大人になったときに必要な人格を身に付け、社会に貢献できる人になって欲しいという願いが込められています。それは、保護者の願いでもあります。社会の形成者とは行かなくとも、将来幸せな人生を歩んで欲しいという強い思いを持って子育てをしています。私たち教職員も、保護者の方々の思いにはとうていかなわずとも、一人ひとりの生徒に、「幸せな人生を歩んで欲しい」と願って教育活動を進めています。

ただ、大人の行動様式や価値観は『十人十色』です。教職員がよかれと思って取った行動が、保護者の皆様の価値観と大きく異なり、時には保護者と学校が対立関係になってしまうことも、これまで多々経験してきました。

まさしく、「もったいない」ことです。保護者も教職員も、子どもの幸せを願っているのです。対立する必要など全くありません。学校と保護者は、子どもの幸せを願う『パートナー』だからです。そのことさえ理解し合っていれば、行動様式や価値観がすれ違っても、話し合いさえすれば、必ず納得し合えるはずだと信じています。

保護者の方も学校も願いはただ一つ。「子どもの幸せ」であることを確認し合い、子育ての良きパートナーとして子どもたちを見守っていただけることを願うばかりです。



地域の方々に温かく見守られて

HPの【校長室より】にも掲載しましたが、東中の生徒が下校するとき、退勤する市役所の方々から、「さようなら。」「気をつけてね。」と声をかけていただいております。市の行政を支えるの方々にも温かく見守っていただき、嬉しい限りです。東中の生徒も地域の方々に挨拶をしているようです。まさしく優しさの連鎖です。

